

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 18 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏 名	坂本 旬
研究課題	経営戦略としての歴史・過去の利用				
研究キーワード	レトリカル・ヒストリー、歴史語りの研究、過去の利用、パブリック・ヒストリー	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	12. つくる責任 つかう責任	16. 平和と公正をすべての人に	
1. 研究成果の概要 本研究ではまず、経営学や組織論における歴史的転回に注目し、そうした動きがどのような潮流で生じたのか、また、そのなかでレトリカル・ヒストリーという概念がいかに注目されるようになったのかということについて、先行研究をもとに整理した。ここでは特に、歴史学および経営学の双方から、歴史や過去の利用について複眼的に検討した。歴史学では、ヘイドン・ホワイトによる『メタヒストリー』や『実用的な過去』を中心に、アーサー・ダントやジョン・ギャディス、カルロ・ギンズブルグなどの論考も参照しながら、歴史叙述の方法論に関する先行研究を整理した。経営学においては、企業が時間をかけて組み合わせ蓄積したリソースが、企業独自の優位性になることを示したリソース・バースト・ビューに関する先行研究を改めて整理し、経営戦略における歴史の役割や戦略としての過去の扱いについても検討を加えた。 2024 年度においては、歴史学と経営学という双方の視点から、上記の先行研究整理を行うことで概ね順調に進展したものの、これらをふまえたより詳細な理論研究および実証研究には至らなかった。こちらについては、経営戦略としての歴史利用に関するより広範な文献研究を行うなど、理論的な検討は継続しつつも、企業の様々な日常におけるレトリカル・ヒストリーの実践を検討するための事例や資料の収集にあたることで、実証研究に向けた準備を行う。 2. 著書・論文・学会発表等 【翻訳】 E. H. シャイン・P. シャイン著（宇田理監修・監訳）『組織文化とリーダーシップ（原著第 5 版）』白桃書房、2025 年。（第 14 章の翻訳を担当） 3. 主な経費 関連書籍や資料の購入に使用した。 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） 特になし （本文は 2 ページ以内にまとめること）					